

かえで

編集 社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東陽4-8-10 202号室 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

親愛なる他者を増やしていくこと

社会福祉法人江東楓の会 理事 原 隆典

季節も少しずつ春に向けて変化しているところとなりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

世の中の的には日本初となる女性の内閣総理大臣が就任し、解散総選挙の結果、自由民主党が議席を伸ばす結果になりました。社会情勢の変化の中で、様々な問題や課題解決策が求められています。社会保障における公約では、飲食料品において期限付きにて消費税対象外とすることや、地域医療・介護等の基盤を守るため、医療・福祉・介護分野で働く幅広い職種への賃上げを図ることにより、高騰している食材費の安定や障害者福祉を含めた介護職員等の人材確保や育成へと繋げていくとの内容となっております。これらが制度等に反映された際に対応できるようにしていく必要があると考えています。

当法人につきましては、社会情勢や制度の変化に対応し、安定した運営体制を構築すべく取り組んでまいりました。新規事業となる江東区東砂福祉園の運営についても、単に事業規模が広がるだけでなく、当法人を利用する皆様にとっての身近な存在である「親愛なる他者」を増やしていくことになると、とても大切に考えております。

新年度を迎えるにあたり、新たな気持ちを持つとともに、これまで大事にしてきた「自己選択」を念頭に置いて日々の支援にあたっていきたいと考えています。

今後ともご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



毎日が刺激的！

ワークセンターつばさ 支援員 熊谷 倫太郎

昨年7月に入職してから、あっという間に半年以上の月日が経ちました。福祉の業界は未経験だったため、当初は今まで過ごしてきた自分の「当たり前」とは異なる毎日に驚くことばかりでしたが、同時にとても刺激的で面白いと感じています。

この半年間で、利用者さん一人ひとりの特性を深く理解することの重要性を学びました。おしゃべりが好きな方、気持ちを崩しやすい方、お茶が好きな方など、その個性は十人十色で、当初は戸惑う場面ばかりでしたが、それぞれの特性に合わせて支援の仕方を変えるべきだと気づいてからは、観察することの大切さを意識するようになりました。表情が曇りやすい方に対しては、本人が不安や悩みを打ち明けやすいような問いかけを心がけ、特定の物事へのこだわりが強い方には、負担にならないような言葉選びやタイミングを考えるようになりました。

利用者さんの明るさに負けず、私も日々明るく全力で支援していきたいと思います。そして「明るすぎる支援員」として、全国に名を轟かせたいです。「明るいと言えば、太陽か熊谷支援員だよね！」と言われるよう、来年度も頑張っまいます！！



積極的に！

江東区あすなろ作業所 支援員 伊藤 菜緒

一年前の今頃を思い返すと、大学4年生の春休み真っ最中でした。当時は卒業旅行やアルバイトなど、休暇を満喫する一方、もうすぐ社会人という未知の領域に行く緊張や不安も日々感じていました。入社してしばらくは、何もかも初めてのことばかりでしたが、周りの先輩方の真似をして、利用者さんへの接し方や支援方法を学んでいきました。利用者さんと話していくうちに、この人はこれが好きなんだ、この人はこういう場面が苦手なんだ、と一人ひとりについて知ることができたり、このアプローチをするとこのような反応をするんだ、という気づきがあったりしました。

社会人になり圧倒的に変わったことは、責任の重さです。今までは、自分に対しての責任がほとんどでしたが、社会人になると、自分だけではなく利用者さんの人生や施設の信用まで背負うことを知りました。1つの仕事、1つの対応がとても大切で、責任があるということに身に染みて感じました。

私はもともと人の目を気にしてしまう性格です。しかし、自分の責任を果たすためには、分からないことを分からないままでは終わらせられません。積極的に聞き、相談し、分かるまで理解する必要があります。今年の4月から社会人2年目になりますが、この一年で得た「積極的になること」をより意識し、責任を全うしていきたいです。

地域移行をめざして ～にわか不動産屋生活～

江東区リバーハウス東砂 支援員 橋本 知佳

担当利用者さんがこちらのグループホームをご利用して3年。新たな住まいを考える時期となり、私は初めて地域移行に携わることになりました。右も左も分からず戸惑っていたところに「本人になったつもりで、引っ越しをすると考えればいい」という助言が！

そこから私の“にわか不動産屋さん生活”が始まりました。条件は江東区内、かつ職場からのアクセスがいいこと。意気込んで電話をかけるものの、返ってくるのは「現在満室です」の言葉ばかり。なかなか厳しいスタートでした。区外なら空きがある状況でしたが、利用者さんが話をする中で「知らない土地に行く勇気がない」という思いを話してくれました。

そこで実際に利用者さんの興味のある地域と一緒に足を運び「どんな場所か知ってみよう」作戦を決行！その結果、「ここなら大丈夫」と言える地域に出会い、生活を始めるところまで来ました。住んでみて初めて見える課題もありますが、今回の経験は、私にとって利用者さんの住まいを探すだけではなく、ご本人の未来を具体的に思い描き、その一步を共に考えることの大切さを学ぶ機会となりました。

次に“開業”する時までには、更に利用者さんの意向に添える不動産屋さんになれるように精進してまいります。

一瞬だと思っていたら、一年でした

江東区亀戸福祉園 支援員 大和田 真衣

北海道から上京し、楓の会に入職してから約一年が経ちました。入職当時は11月にグループ外出があると聞き、雪の心配をしていた私ですが、すっかり生活にも慣れ雪を気にすることもなくなりました。

一年を振り返ると一日一日が本当に一瞬のように感じられます。朝起きたと思ったらもう帰宅している感覚で、はじめの頃はそれをラッキーだと思っていました。しかし日々支援を行い、研修を受ける中で、自分の支援が利用者の人生に関わっているということに自覚するようになりました。すると、それまで一瞬のように感じていた一日一日は無駄にはしていなかったのだと分かりました。生活課題の解決に向け、日々の支援一つひとつに意味を持たせる必要があると、もっと早く理解できていれば、利用者の一年も変わっていたかもしれないと反省や悔しさが残ります。

一方、この一年をただ過ごしてきたわけではありません。手探りでありながらも、利用者とは真剣に向き合い続けてきました。試行錯誤を繰り返す中で、食事をほとんど摂らない利用者が一皿を完食した際には、嬉しさのあまり涙が出るほど印象に残っています。毎日の変化はわずかで、その瞬間には気付けないこともありましたが、振り返ってみると利用者も、そして私自身も成長できた一年だったと感じています。

来年は、胸を張って「自分が担当でよかった」「（自分が目の前にしている利用者が、私が支援することを）ラッキーだ！」と思ってくれるような支援ができるよう、より一層努力していきます。

高齢障害者通所施設さくら 事務主任 山崎 結子

今年度も残りわずかとなりました、振り返るとプラザまつり、宿泊、バスハイク、各行事も無事に終え、また来年度に向けて色々と準備しています。事務員らしく今年度を振り返ると、どうしても数字になってしまいます。そして、素晴らしい数字がでました。「91」これは利用者さんの今年度の平均出勤率です。さらには95.1%の出席率の月が2回もありました。カラオケでいうと95点はなかなかの高得点です。こんなに出席率が良いのはなぜかを考えてみました。

さくらでは午前中は軽作業をします。午後は身体を休める時間を取り、ゆっくりと過ごす時間としています。ですが、作業前にはラジオ体操、ストレッチ、青竹ふみ、昼食前には誤嚥防止体操、午後活動前には筋トレを行い、めりはりをつけて毎日過ごされています。そのせいか?!心も身体もお元気で、ボランティアの体操クラブの先生のお墨付きをいただいております。また、こどもの日の柏餅作り、年始の絵馬作り、節分の豆まき、ひなまつりの創作などの季節を感じられるイベントや、外部講師やボランティアの方をお招きして、ちぎり絵創作、日本舞踊鑑賞、お話会なども行っているため、毎日さくらに来て飽きがないこと、が通所に結びついている一つかな、と思います。

来年度もみなさんが「楽しい」「行きたい」と思っただけの「温かいさくら」にしていきたいと思っています。

利用者の中で話す通所先での話題から…

グループホームかえで 管理者 仲俣 圭

令和も8年目を迎え早3か月になります。年度末になると聞こえてくるのが人事異動の話。利用者それぞれに『〇〇さんが(異動で)いなくなっちゃう・・・』『今度〇〇さんが来るんだよ』と話に花を咲かせています。グループホームかえでの利用者は通所先も様々ですので、こういったところで情報交換をしているようです。

さてグループホームかえでの今年度ですが、グループホーム全体として何か特別な事があったわけではありません。が、利用者個々にとってはいろいろな事があったかと思えます。65歳を迎えた方、家族を亡くされた方、職場が変わった方、仲の良い友達とケンカしてしまった方、初めて後見人(保佐人)をつける方、作業所の休日出勤の帰りに迷子になってしまった方・・・。思い返したら色々ありました。

私たちがライフステージごとに経験するいろいろな出来事が、当然利用者にもあり、グループホームかえでの様な“滞在型グループホーム”ではそういった人生における色々な場面場面での支援も必要となってきます。時にはグループホームだけでは対応が難しいことや、福祉の立場では対応が難しいこともあります。今まではややもすれば“全てグループホームで対応します”というスタンスがあったかもしれませんが。しかし今は関係各所や他職種の専門家等と連携を取っていき、利用者を取り巻く環境をいかに整えていくかが重要になってきていると実感しています。

楓の会の一員として、グループホームかえでの職員として、利用者の生活・人生を支えるために何が出来るか、何をどうしていくか・・・。大げさなようですが、今一度振り返って考える必要があるかなと思った年度末でした。

スポッチャに挑戦して感じたこと

若竹作業所 支援員 戸松 和恵

若竹に勤めて5年、入った当初は全体的に年齢層が高めだった若竹も、若年層の利用者が少しずつ増え、昼休憩にスマホを見て過ごす光景をよく見るようになりました。当然ながら既存の利用者の方々の年齢も徐々に上がり、けがや病気、転倒のリスクも上がったことを実感した一年でした。なるべく体を動かせるようにしたい、でも動いて転倒でもしたら…と、利用者の方々の健康を考えた支援が良いか、起こりうるリスクを減らすか悩むこともありました。健康面で真っ先にできる対策として、まずは毎日のラジオ体操に職員が率先して取り組むことで、利用者の方々の参加への意識を高めようと試みています。その結果、以前よりも体操へ参加する方が増え、活気のあるラジオ体操タイムとなっています。

また、若竹の行事でスポーツレクリエーションという名のボウリング大会が恒例でしたが、ケガのリスクばかり考えていても先へは進めないと思い、今年度は思い切ってラウンドワンのスポッチャに挑戦しました。普段行うことのないスポーツにたくさんの笑顔が見られ、ケガもなく終わりましたが、グループ行動の中でも体力の差が大きく見られました。ボウリングというスポーツが老若男女問わずに行えるいかに素晴らしい競技だということ、も思い知らされた行事になりました。

利用者の方々やご家族の高齢化、年齢差のある利用者が楽しめる方法など、課題は尽きません。そんな課題に向き合えるよう、まずは自分自身の心と体の体力をつけることを新年度の目標にしよう！そう思わされた一年でした。



白衣の工場長より

第三あすなる作業所 支援員 石村 哲郎

今年度から自主生産の食品衛生責任者として、利用者の方々と豆乳商品を製造、販売を行ってきました。そして私には、その立ち姿からか「工場長」と名誉ある名前を呼んでいただくこともしばしば…。

皆さんのなかには食品を扱う分野で働いた経験がある方もいらっしゃると思います。私も学生時代、飲食店でバイトをしていましたが、仕事をする前に〇〇秒手を洗う、細菌検査を受けるなど、やることと言ったらそれくらいの知識しかありませんでした。

生産現場の責任者になると、ただ単に作れば良いというだけではなく、生産前後の食品の品質管理、原材料含めた賞味期限の管理、生産現場における衛生管理など挙げればキリがありません。日々の支援と並行して行うことが、更なる緊張と重圧になり、続けていけるのか不安になることもありました。しかし、今年度を通して自身がここまでやり通せたのは、一緒に働く利用者の方々、職員、商品を楽しみにしていただいているお客様がいたからこそと思います。

学生時代の私には二つの夢がありました。一つは「人の役に立てること」、もう一つは「パティシエになること」。人の役には立っていないかもしれませんが、商品を作って喜んでいただける方たちがいたのであれば、二つの夢が叶った、そんな素晴らしい年になったと思います。

いつも豆右衛門の商品をご購入、そして、楽しみにして下さりありがとうございます。
「また、お待ちしております。」



先輩方の存在

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田 俊彦

昨年末から今年初頭にかけて、数名の利用者さんが転居され、契約が終了となりました。個人的な話になりますが、私が入職した10年近く前にはすでに利用されていた方々で、どこか“先輩”のように感じていました。皆さんから楓の会のスピリットを自然と受け取り、自分も感化され、その姿勢を継承していくような気持ちで支援に向き合ってきました。

その方々が同じ時期にいなくなってしまったことに、正直うろたえています。そして、今ヘルパーセンターが支援している利用者さんの大半が、私が入職後に新たに契約された方々であることにも気づきました。相変わらず粗相が多く、いつまでも新入気分のもりでのですが、周囲からはベテランとして見られているのかもしれませんが。誰かにとって、自分は頼れる“先輩”になれているのでしょうか。

転居された方々にとって、ヘルパーセンターの支援が価値あるものだったのか、きちんとうかがう機会がなかったことは残念です。しかし、皆さんから受け取ったものは確かに自分の中に残っています。それらを今後の支援に活かし、これまで関わったすべての利用者さんの記憶とともに、これからのヘルパーセンターをつくっていきたいと思います。

「笑顔の基地」を目指して

江東区東砂福祉園準備室 支援係長 樋熊 和美

5年前の江東区あすなろ作業所に続き、令和8年4月から江東区東砂福祉園を江東楓の会で運営することになりました。昨年11月から準備室が立ち上がり、現法人の東京都手をつなぐ育成会の職員の方々と利用者・家族に少しでも安心して頂けるよう並行運営をすすめてきました。丁寧な引継ぎをしていただいたおかげで順調なスタートが切れそうです。

これで東砂福祉プラザに入っている3施設、東砂福祉園・あすなろ作業所・リバーハウス東砂が当法人の運営になります。今まで以上に職員が行き来し協力することで、利用者一人一人を知る職員が増え、施設間の交流も活発になるとワクワクしています。時にはあすなろ作業所で作業体験をしたり、リバーハウスにふらっと見学に行ったり、同じ生活介護の亀戸福祉園に遊びに行ったり、何が出来るかなと想像すると楽しみがいっぱいです。

法人が変わっても「良かった」「安心した」と言われるような『笑顔の基地』を作っていくよう頑張ります。



編集後記

今回も「かえで第60号」をお読みいただきありがとうございます。今号では、各事業所よりそれぞれ職員がこの一年を振り返り、最近の心境などお伝えさせていただきました。令和7年度もそろそろ終わり、また新年度が始まります。皆さま新年度を迎え何かとご多忙かとは思いますが、体調にはくれぐれもお気をつけください。

令和7年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第59号からつづく)

岡崎 吉泰	櫻井 綾子	高橋 愛美	橋本 知佳
坂本 夢来	菅谷 栄二	中島 清美	原 未来

(敬称略、順不同)

(なお、令和8年3月3日以降 賛助会員は次号につづく)

ご寄付

ご寄付を賜り誠にありがとうございました

- 株式会社関東電気サービス
代表取締役 斉藤 清 様

- 匿名希望 1名

ご寄付いただいたものは、法人の事業に使わせて頂いております